

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人平成会		
事業所名	グループホームあじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区宇納間170 (電話) 0982-62-5575		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年9月17日	評価確定日	平成21年10月30日

## 【情報提供票より】 (平成21年8月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要(平成21年8月20日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	0	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85歳	最低 68歳	最高 40歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	美郷町国民健康保険西郷病院、美郷町立北郷診療所
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美郷町北郷区の中心区域にあり、自然環境・生活環境ともに恵まれた位置にある。高齢者生活介護の複合施設の一角を占めているが、地域とのつながりを広げる努力が続けられ、その結果地域の信頼を年々強めていることが伺えた。毎日の日課にラジオ体操を組み入れ、生活のリズム作りに生かしている。一見何げない取り組みに見えるが、継続の力を示しているように受け止められた。運営者の運営方針また、管理者の熱意がすみずみまで行き届いており、それが利用者の穏やかな表情に集約されているようであった。「一人ひとりを大切に!」との理念はシンプルであるが、この理念があらゆる活動の根底にあり、さらに共用空間・個室のたたくまいにまで表れていた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回は5項目の改善課題が提起されていたが、この一年間でほとんど解決また、解決の見通しが得られていた。特にカンファレンスへの家族の参加や外部評価を通した一人ひとりの意識改革は、利用者のQOL(生活の質)の向上につながっていると感じられた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、一人ひとりが全ての項目について評価を行いこれを持ち寄って話し合いをしながら、管理者が最終的にまとめている。日常のケアの振り返りや、自己の足元を見直すチャンスとして、全職員が真剣に自己評価に取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 7月末の運営推進会議では、前回の外部評価結果(課題項目)の取り組み内容の報告やホームの現況報告がなされていた。さらに家族からの設備的な改善要望なども議題にあげられていた。会議の一部のメンバーは定期的に変更されており、次回の変更の折には新たに老人会役員の参加を願う計画もあり、全体的に活発な活動の様子が伺えた。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族の多くは、ホームのケア内容をありがたいと受け止めており、苦情や不安はあまり聞かれない状況にあるがホームでは、カンファレンスに参加の折や来訪時にはできるだけ意見を聞きだしている。気楽に意見を出せるような雰囲気作りを常に心がけており、設備的な改善要望もその一例である。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事予定がわかるようになっており、幼稚園や小学校とのつきあいもある。地区の自治会行事への参加の折や日常の散歩の際も近所の人々から声をかけてもらえる間柄になっている。地域の運動会に出かけたり、地域にある有名な地蔵祭りも触れ合いの機会として活用している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりを大切に！」というシンプルな理念を掲げている。生まれ育った地域の中で、個々の個性を大切にしながら暮らし続けることを支えることを意味している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの柱となる考え方が職員でばらつかないように、管理者と職員は理念の共有を日々意識している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や行政の行事予定を入手し、地区活動（ふれあいサロン・運動会・地蔵尊祭り）に参加している。幼稚園や小学校との触れ合いも大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々の職員が自己評価に取り組み、忙しさに流されがちなケアのありかたを見直すチャンスとしている。また、前回の課題となった項目の改善にも積極的に取り組み、既にほとんどの課題を克服している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が充実してきており、地域の意見も活発にできるようになっている。ホームの活動内容や外部評価の結果についても報告し、意見交換の材料としながらサービスの向上につなげる努力をしている。さらにメンバー拡大の計画もある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の役場でのケア会議に関係者が出席したり、行政の行事や福祉関連の状況を話し合い、町の関係者との連携を深めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に写真を多用したホーム便りを作り利用者の暮らしぶりを伝えている。家族の訪問の折には健康状態の報告はもちろん、金銭出納帳にもサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や苦情が言える関係作りに努めている。カンファレンスに家族も参加してもらえるようになり、意見等を聞く機会が増した。意見を運営に反映すべく努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者へのダメージを極力抑えるよう、日ごろから利用者の状況を法人内の朝礼などで毎日報告し、情報を共有している。また、デイサービスを活用したり、他の職場の職員と利用者の交流の機会を持っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での研修も職員のレベルに応じて実施している。法人全体として介護福祉士の資格取得に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会参加や地域の同業者との情報交換・事業所見学など行いサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの雰囲気を体感していただき、できるだけ本人の納得の上で利用を開始している。本人の状況を見極め、職員や他の利用者との関係作りに家族の協力を得ながら取り組んでいる。認知症のケアは奥深く、なじむまでに多くの時間を要する利用者もいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は個々の心身の状況に応じた介護に努め、できること・楽しみごとをともに行うことで、互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「一人ひとりを大切に！」の理念を体現すべく個々の希望をよく聞いて、できるだけ応えるようにしている。思いの伝達が難しい利用者には、日々の言動に注目し、本人の思いをくみ取る努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスは利用者・家族・職員全員で話し合い、本人や家族の希望・ホームでの状況を勘案して、よりよく暮せるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護状況や本人の状況を評価し、心身の状況の変化に対応して関係者間で話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内に特別養護老人ホームやデイサービス・支援センターが存在することもあり、家族や利用者の要望への柔軟な支援がしやすい状況にある。緊急時や外出時なども相互に支援しあって、より柔軟な対応がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者のかかりつけ医は、地域から少し離れた西郷区の病院である。症状によっては延岡の病院に行く利用者もある。近隣に診療所がないという問題はあるが、適切な医療が受けられる支援はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要になった段階の終末期ケアには限界があるが、できるだけ早いうちに終末期のあり方について、事業所・家族・かかりつけ医と話し合い、方針を全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや人格を尊重し、その人にあつた言葉かけをしている。記録や個人情報も保管場所を決めてしっかり管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて、ホームとしての大まかな日課はあるが、利用者のしたいことを重視し、希望に沿った過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ゴボウのささがきやモヤシのひげ根取り等、簡単な下ごしらえを手伝ってもらっている。職員は調理人の経験者を中心においしい食事作りに工夫をこらしており、利用者に喜ばれている。後片づけのできる利用者もいて、ほほえましい雰囲気が漂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴を楽しんでもらうことを大切に、午後のリラックスタイムを入浴時間にしている。体に負担の少ない入浴の仕方は利用者にも喜ばれている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除などの家事、花植え草取りなどの軽作業、また、歌をうたったり塗り絵などの室内での楽しみに加え、散歩などの屋外での楽しみも気晴らしや張り合いとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がよい時期は、屋外散歩が日課でもあり近隣の方々から声をかけてもらう交流の場もある。近くのお店での買い物や近場のドライブも楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアに呼び鈴を取りつけるなどの工夫をし、できるだけ鍵をかけないようにしている。一部の利用者の対応のため時間帯によっては鍵をかけることもあるが、利用者や家族にはその旨了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の防災訓練を利用者とともに実施し、災害に備えている。夜間一人のケースを想定した訓練をしたこともある。年に一度は法人全体で、地域の消防団との合同訓練も行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士によるカロリー計算された食事を工夫し提供している。食事・水分摂取量をチェックし記録している。個々に応じた食事量の調整や、刻み食にし、食べやすくする支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な飾りつけなどはないが、季節感を醸す大型の花生けがあり、非常に落ち着いた雰囲気気で気持ちが休まる空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に応じた家具・調度品が置かれており、ここでも一人ひとりの個性が尊重されていた。まさに理念である「一人ひとりを大切に！」が生かされていた。		

※  は、重点項目。